

令和6年度 シラバス 【家庭基礎】

1 1 新潟県立新潟翠江高等学校（通信制課程）

履修区分	単位数	レポート提出回数	最低出席時数	試験回数
必修	2	6	6	2
教科書			学習書・その他教材	
家庭基礎 自立・共生・創造 （東京書籍）			LIFE おとなガイド（教育図書）	

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①生涯にわたって自ら意欲的に学び続け、目標に向かって努力する態度を育成します。 ②互いの人権や考えを尊重し、命を大切にする心と行動力を育成します。 ③社会的・職業的自立に必要な勤労観や職業観を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行う～ ①多様な生徒の学習歴や興味・関心に合わせた科目選択ができる教育課程を編成します。 ②思考力・判断力・表現力の獲得を目指した、学びを充実させる丁寧な面接指導（スクーリング）を行います。 ③生徒が自学自習しやすい報告課題（レポート）を作成し、生徒の学びを深める丁寧な添削指導を行います。 ④放送視聴や平日校外スクーリングなど、通信制の特徴を活かした多様な学び方を促します。 ⑤コミュニケーション能力の伸長を図るため、生徒交流会や運動会、体験学習等の特別活動を行います。

学習目標

1. 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。
2. 学習した知識や技術を活用し、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の視点から、家庭や地域の生活課題を主体的に改善・創造する態度を育成する。
3. 家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

学習内容

第1・2章	生涯を見通す 人生をつくる	(第1回レポート)	
第4章	超高齢社会を生きる	(第1回レポート)	
第5章	共に生き、共に支える（前編）	(第1回レポート)	前期試験範囲
第6章	食生活をつくる（前編）	(第2回レポート)	
第6章	食生活をつくる（後編）	(第3回レポート)	
※ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動		(第1・2回レポート)	
第3章	子どもと共に育つ（前編）	(第4回レポート)	
第3章	子どもと共に育つ（後編）	(第5回レポート)	
第5章	共に生き、共に支える（後編）	(第5回レポート)	
第9・10章	経済生活を営む・持続可能な生活を営む	(第5回レポート)	後期試験範囲
第8章	住生活をつくる	(第6回レポート)	
第7章	衣生活をつくる	(第6回レポート)	

学習方法

レポートは教科書に沿った内容になっています。該当のページは指定してありますので、その部分をよく読

み、理解して解答してください。空欄3つ以上でE評価になります。

スクーリングではレポートに沿ってプリントを用いて進めていきます。レポートの作成に役立ちますので、積極的に出席しましょう。平日スクーリングでは、実習や消費生活に関する講義を受講し、学びを深めていきます。貴重な体験ができると思いますので、是非参加してください。

試験はレポートの内容から出題します。レポートの内容を繰り返し学習してください。

評価の観点の趣旨		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

評価方法		
レポートの評価、試験の成績を総合して評価します。 6回のレポートすべてが合格し、授業に6時間以上出席し、試験の平均点が30点以上であることが、単位認定の目安です。レポート評価は以下の観点から行います。 各観点における評価方法は次のとおりです。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ ・定期試験の分析 ・レポートの内容の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ ・定期試験の分析 ・レポートの内容の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ ・定期試験の分析 ・レポートの内容の分析 などから、評価します。
内容のまとまりごとに、各観点「A：十分に満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。		

担当者からの一言
家庭基礎の学習内容は実生活に密着しています。皆さんのこれからの生活に役立つ内容を取り上げていきたいと思いますので、楽しんで学習してもらえたら嬉しいです。